

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 5月 8日

事業所名

Coccolato箕面校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	利用人数に応じた適切なスペースを確保しています。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	基準を満たす職員数を適切に配置しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	建物の構造上完全なバリアフリー化は難しいですが、必要に応じて補助を行っています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	清掃・消毒を日々行っています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	定期的ミーティングを実施し、情報の共有と業務改善に努めています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	保護者評価を真摯に受け止め、職員間で共有しながら改善を図っています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページで閲覧できます。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		今後検討します。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	職員のスキル向上を目的とした研修を定期的に行っています。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	保護者や子どものニーズ・課題を把握・分析し、支援計画を作成しています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	それぞれの項目に沿って支援内容を設定しています。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	定期的に支援計画を確認しながら支援を行っています。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	話し合いながら日々のプログラムを決めています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	個々の課題に合わせて固定化しないようプログラムを組んでいます。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	100%	0%	お子様の様子や保護者のご希望に応じて柔軟に対応しています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	毎朝職員の役割分担を確認し、利用児のプログラム内容について職員全体で話し合いながら決めています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	支援終了後または翌日の朝礼や打ち合わせの際に振り返り、気付いたこと等を共有しています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	利用時の支援内容を記録し、情報を共有できるようにしています。また、ミーティングなどで定期的に支援の確認や見直しを行い今後の課題設定をしています。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	0%	100%		サービス担当者会議は参加したことはありませんが、今後必要があれば参加します。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	必要時には連携して支援を行います。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	0%		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	0%		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0%	100%		必要に応じて情報共有等いたします。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0%	100%		必要に応じて情報共有等いたします。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	必要時には他事業所と連携を図っています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	50%	50%		一部イベントでは、利用者以外も参加できる時間帯を設定しておりますが、昨年度は参加希望がなかったため、参加していただけるようブログ等で告知します。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%	市の事業所連絡会に定期的に参加しています。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	ノートの記入や送迎時のお声がけなどによりお子様の様子をお伝えし、情報共有しています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%	毎月様々な分野の講師を招き、子育てカレッジを開催しています。		
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%			
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0%	100%		今後、保護者のご要望等聞き取りを行い検討します。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	保護者の希望に応じて適宜面談等を行っています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	毎月お子様の様子をお手紙にして配布しています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	お子様やご家庭の状況に合わせて連絡手段を考え、情報が確実に伝わるようにしています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	一部イベントでは、利用者以外の方も参加できる枠を設定しております。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	各種マニュアルを作成し、定期的に訓練を行っています。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%		
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	契約時にフェイスシート等にて確認しています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	事業所内では食事提供をしておりますが、契約時に保護者にアレルギー等の確認を行い、必要に応じて指示書をお預かりしています。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	年に数回研修を行っています。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	契約時に説明をし、同意書をいただいております。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。